

幡多希望の家

◆◆ No.5 ◆◆



医療型障害児入所施設
療養介護事業
幡多希望の家

TEL(0880)66-2212 FAX(0880)66-2215
HP・http://www.gallery.ne.jp/~hatakibo/index.html
Mail・hataki01@mb.gallery.ne.jp
〈発行所〉〒788-0782 高知県宿毛市平田町中山867番地
〈発行日〉2017年8月18日

十年前に発行した幡多希望の家創立十周年の記念誌をみてみると、現在入所を続けている多くの方々の写真が掲載されて居りますが、当然ですが皆さん若い方が29人居られます。29人もの多くの方が体調の変化はいろいろあったとは思いますが、幡多希望の家で20年近い長い時間を過ごして居られます。これは私には大きな驚きでした。更に驚いたのは、東京デイズニールンド、北海道旅行などいろいろあるところへ旅行した利用者さんの写真があったことです。

平成29年度は、幡多希望の家が開設されて20年目に当たります。高知県西部の障害者医療福祉の拠点として、地域密着の療育を提供する場とすることを目指して、医療福祉の関係者、利用者、家族の方々、高知県、宿毛市、四万十市(旧中村市)、土佐清水市、黒潮町(旧大方町)、大月町、三原村等の行政の方々の多大な努力の末、平成9年4月、宿毛市に開設されました。それから20年、十年一昔と言いますから、設立に向けて尽力くださった方々、設立以後施設の運営に関わった方々、職員ならびに利用者さんの家族の皆様にとっても感慨もひとしおであろうと思います。そして長年に渡っての御努力に深い敬意を表したいと思います。

平成18年から始まった障害者支援の法律の改正でこの十年新しい福祉の時代が始まりました。重症児者施設の体制にも大きな変革が求められるようになりました。幸い重症児者一貫療育の体制は維持されることになりました。幡多希望の家の施設としては名称の変更はありませんが、施設としては大きな変化はありません。しかし今後入所施設としては大きな変化はありませぬ。障害者の方々のサービスの強化、今後も増えると考えられる人工呼吸器を装着したような超重症児と呼ばれる方達への支援、さらに今後近いうちに発生が予測される東南海地震における福祉避難所としての役割が求められています。今後もこの地域に密着した医療福祉の拠点として入所施設でのサービス提供だけではなく、障害者が地域の中で社会の一員として生活できるように環境づくりに努めていく必要があると思います。

施設長便り

第5号



管理職員のこまめな手入れがあって、ペチュニアとサフィニアが盛々と咲いてくれています。(お花は宿毛授産園さんからいただきました。)

施設長 山本 洋

昨日は希望の家の夏祭りでした。家族の方が来られて入所者の皆さんは皆さんはいつにもましてうれしそうでした。しかし20年の年月はやはり長いので、現在入所者の皆さんの平均年齢は46歳です。86歳の高齢の方が2名居られます。当然のことながら家族の方も高齢になってきて、面会の頻度が少なくなってきたり、希望の家の生活を楽しみたいものにしていく努力が求められます。

入所者の高齢化に伴い、病状の重症化は避けられない状態です。事実病棟では心臓や呼吸器の状態を示すモニターが常に稼働している状況が続いています。泊りがけの旅を計画しても参加できそうな方は少なくなっています。希望の家から外出して、希望の家がある地域や、住み慣れた地域に出かけていく機会を増やしていくなど限られた条件の中で、いかに有意義な行為が何であるかを常に考える姿勢が求められると思います。人口減少が著明な高知県西部で幡多希望の家が知恵を出し合っているにあたって、必要なことは何か皆

20周年記念コーナー

開園20周年に向けて

振り返れば20年。施設の開設時から職員として今も尚20数名が在職しており、皆当初の思いを引き継いでいると自負しています。開設時、ほとんどの職員が、重症心身障害とは何？どんな障害？から始まった施設。自分たちは何をしたらいいの、どんなお世話をしたらいいの？何も分からずにお世話かいや要らぬ手助けなど利用者の成長、機能維持を妨げる事ばかりしていた自分が、利用者本人に介助、援助の仕方を教わっていたことを、今頃になって恥ずかしく反省しています。

ただ、あの頃はいかに利用者が安心して過ごす事が出来るかを皆で一生懸命議論し合い、試行錯誤しながらなんとかここまで来た、という思いがあります。まだ道半ば、これから地域とどう共存していくかを考える20周年を迎え、その節目として記念式典を開催することとなりました。基本的にご利用者中心とした考えの下に、地域の皆様をお迎えし皆が笑顔で過ごした日々を懐かしむ式典とし、これからも楽しく、明るく開かれた施設として継続していく為の20周年記念式典にしたいとの思いで、計画をしております。これまで、皆様には多大なご協力を頂いておりますが、今後ますますのご助力を頂き、名前のごとく希望にあふれる施設としたいと考えておりますので、これからも宜しくお願いいたします。

20周年記念事業実行委員長 山本

式典開催は10月29日(日)13時30分からを予定しております。

20年を振り返って

幡多希望の家に勤めて早くも20年という年月が過ぎていました。とても早かったように思います。開園時、幼い顔をしていた利用者もすっかり大人の顔となり、同時に自分も年を重ねていました。思い起こせば20年の間には色々な事がありました。日々楽しく過ごせたのも、色々な事を乗り越えてくれたのも利用者さんの笑顔、周りにいてくれたスタッフのおかげだと感謝しています。これからも利用者が健やかに過ごせるように願いながら、日々楽しみにしている食事、個々の食形態にあった食事を頑張って提供していきたいと思っています。

栄養科主任 坂口

20周年を迎えるにあたって

幡多希望の家に入社して早くも20年を迎えることになりました。私にとつて初めての就職先、また開園からのスタートということもあり、期待と不安を抱きながら入職したことを覚えております。開園時はリハビリ科で10年、その後在宅の訪問介護へ異動となり10年を迎えるようになっています。当初は慣れない事に戸惑うことが多くありましたが、今までも頑張つてこれたのは利用者さんの笑顔、そして家族さんや共に働く仲間のおかげ、感謝の気持ちでいっぱいです。この20年を期にもう一度心を新たに、利用者さん家族が安心して暮らして自分の出来る、職員と助け合いながら日々自分の出来る一杯を全力で頑張つていきたいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします。

訪問介護主任 松田

編集後記

暑い日が続きますが、皆様お変わりありませんでしょうか。先日は大きな台風が四国に接近し、対応に大変な事だったと思います。当施設も宿毛市より依頼があり、近隣の高齢者施設の方々の避難場所として受け入れさせて頂きました。初めての事で勝手も分からず満足な受け入れができなかったかと思いますが、良い体験をさせて頂きました。今後も地域の皆様に必要とされる施設であるよう努めていきたいと思っています。

ちょっとひとこと

通勤途中の出来事

前を走る車の運転手さんは子供が退屈しないように、信号が赤になると大きく腕を振って“グーチョキパー”の歌を唄っているのが後続車の私にもわかるくらい元気に踊っていました。

朝からほほえましいなあ～と思って車のナンバーを見ると、出勤前に保育園に連れて行っている、うちの男性職員でした。仕事も子育ても全力で頑張っている姿、本当にカッコイイ！！と思ったことです。

給食紹介



- ×ニュー
- ・しょうゆラーメン(スープはあとがけ)
- ・和え物 ・くだもの(みかん)

栄養科からのコメント

今日のお昼はお楽しみの麺の日。特に、鶏ガラからダシを取ったスープのラーメンは利用者みなさんの大好きなメニューで、いつもスープまで完食していただきます。嬉しいです。

希望の家祭



『笑』をテーマにした今年の希望の家祭は、例年より1ヶ月遅れの5月21日に開催されました。まるで真夏日のようなお天気でしたが、大勢のお客様がお越しくださり、みなさん楽しく過ごしていただく事が出来たのではないのでしょうか。

特に今回は、近隣の保育園や幼稚園にも直接ご案内状をお届けした効果もあり、多くのお子さんが遊びに来てくれて、明るさがグッと増した感じです。



ステージでは今年も『ハイクラソーナ・ウインド・アンサンブル』のみなさんが、オープニングからエンディングまで、家祭の雰囲気盛り上げてくださいました。飛び入りのちびっこたちが愉快で可愛いパフォーマンスを見せてくれましたし、利用者の方と職員の笑点もどきは大ウ

ケとなり、さらにコーラの早飲みコーナーでは複数のお客様も参加され、ステージと観客席がすっかり融合していました。そして、昨年も披露してくださった『土佐中村一太鼓』のみなさんの演奏はより一層迫力があり、アンコールの拍手まで沸き起こったほどです。利用者の方の中にはその太鼓を触ったり叩かせて頂いたりして、普段にはない貴重な体験となった事でしよう。

また、初の試みの移動販売のメロンパン屋さんにおいては、お客様はもとよりご利用者・ご家族の方々にもきつと喜んでいただけたと思います。

近隣の中山地区からは、有志による『中山女子倶楽部』(今年で6回目!)の出店もあり、大勢のボランティアアさ

んをはじめとする皆様のご協力のおかげで、今回も希望の家祭を無事終えることができました。

職員一同、心より感謝いたします。



希望の家祭
実行委員

山崎



夏祭り



今年の夏祭りは7月16日に開催しました。天気にも恵まれ、とても暑い日でしたが、たくさんのご家族も来所され、賑やかに過ごしていただけました。

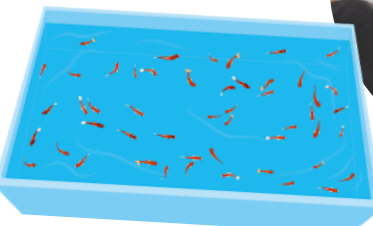
今年は食べ物『かき氷』『ところてん』のみとし、メインのゲームを昨年より多くしてみました。幅2mの射的、金魚すくい、輪投げ、ヨーヨー釣り色々な人に夏を感じてもらえるようなお祭りになったと思います。

ゲームの会場が狭く混雑する所もありましたが、怪我や事故もなく終える事ができました。

新しい利用者の方(18歳・男性)は初参加でしたが、ご家族も来所され一緒に回る事が出来、少しでも早く幡多希望の家に慣れていたなら嬉しいですね。

最後になりますが、準備を手伝ってくださったボランティアの方や職員、当日には暑い中ご協力くださったボランティアの皆様、ご家族の方々、勤務だった職員のみなさん、本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

夏祭り実行委員 波瀾



現場実習

6月には、中村特別支援学校の生徒さんが実習生として幡多希望の家にきてくれました。開設以来初めてのことで、2週間、彼は毎日とても前向きに頑張っており、関係職員からも高評価でした。

最終日には実習の記念に、オセロに自信のある利用者の方と真剣勝負をしたのですが、さて、勝利したのはどっちでしょう!!?



交流学習

7月6日・13日、二回に分けて大月小学校六年生42名が来てくれました。

大勢の子供達との交流で利用者の方々も元気を分けてもらいました。

